

透しており、また韓国図書館協会を中心とする関連専門学・協会の活動・協力も積極かつ緊密である今は、韓国図書館界にとって発展・変化へのチャンスであるが、それができないと危機にもなりかねない。韓国図書館界が一致団結し、この大きな転機を成功へと導くことを願う。

(駿河台大学：金 容媛)

Ref: 金容媛. 韓国における図書館情報政策：法的側面を中心として. 文化情報学：駿河台大学文化情報学紀要. 1996, 3(1), p.24-45.

金容媛. 韓国における知識情報資源管理の政策と現況. 文化情報学：駿河台大学文化情報学紀要. 2006, 13(1), p.1-14. <http://www.surugadai.ac.jp/sogo/media/bulletin/Bunjo13-01.pdf>, (参照 2007-07-12).

金容媛. 特集, 韓国のいま：韓国における図書館情報政策. 情報科学と技術. 2007, 57(1), p.2-8. <http://ci.nii.ac.jp/naid/110006152406/>, (参照 2007-07-12).

“도서관법 (일부개정 2006.12.20 법률 제 8069 호)”. 법제처. <http://www.klaw.go.kr/CNT2/LawContent/MCNT2Right.jsp?lawseq=76372>, (参照 2007-07-12).

“도서관법 시행령 (전부개정 2007.3.27 대통령령 제 19963 호)”. 법제처. <http://www.klaw.go.kr/CNT2/LawContent/MCNT2Right.jsp?lawseq=77905>, (参照 2007-07-12).

“도서관법 시행규칙 (전부개정 2007.4.4 문화관광부령 제 161 호)”. 법제처. <http://www.klaw.go.kr/CNT2/LawContent/MCNT2Right.jsp?lawseq=78172>, (参照 2007-07-12).

“독서문화진흥법 (제정 2006.12.28 법률 제 8100 호)”. 법제처. <http://www.klaw.go.kr/CNT2/LawContent/MCNT2Right.jsp?lawseq=76479>, (参照 2007-07-12).

“著作権法 (전부개정 2006.12.28 법률 제 8101 호)”. 법제처. <http://www.klaw.go.kr/CNT2/LawContent/MCNT2Right.jsp?lawseq=76469>, (参照 2007-07-12).

문화관광부. <http://www.mct.go.kr/>, (参照 2007-07-12).

한국도서관협회. <http://www.korla.or.kr/>, (参照 2007-07-12).

국립중앙도서관. <http://www.nl.go.kr/>, (参照 2007-07-12).

## CA1636

### 中国におけるバーチャルレファレンスサービス

中国ではインターネットの利用者が年々増加している。中国インターネット情報センター（中国互聯網絡信息中心：CNNIC）が発表した『第20次中国互聯網絡發展狀況統計報告』（2007年7月18日発表）<sup>(1)</sup>によると、中国国内のネット市民数は2007年6月末の時点でおおよそ1.62億人となっている。2007年1月に発表された前回の同報告<sup>(2)</sup>では1.37億人であるから、わずか半年で2,500万人も増加していることになる。

この流れを受けて、図書館界でもインターネットを使ったバーチャルレファレンスサービス（以下VRS）を取り入れるところが増えてきている。例えば、公共図書館では、省級図書館（日本の都道府県立図書館にあたる）のうち約71%にあたる22館が、チャット、電子メールやフォーム送信によるレファレンス受付、

レファレンスデータベースの作成など、なんらかの形でVRSを行っている<sup>(3)</sup>。また、大学図書館においては、約13%にあたる90館が、チャットなどによるリアルタイムレファレンスサービスを行っている<sup>(4)</sup>。本稿では、代表的なものとして、上海市中心図書館知識ナビゲーション合同ネットワークサイト（網上聯合知識導航站；CA1507参照）<sup>(5)</sup>、広東省立中山図書館を中心とする総合レファレンスサービスネットワーク（聯合參考諮詢網；E424参照）<sup>(6)</sup>および、2006年5月に立ち上がったばかりの中国国家図書館ウェブレファレンスデスク（網上諮詢台）<sup>(7)</sup>を紹介する。

### ■上海市中心図書館知識ナビゲーション合同ネットワークサイト（網上聯合知識導航站）

上海図書館が中心となって作り上げた共同レファレンスサイトで、2001年5月28日よりサービスが開始された。上海市内の公共図書館、大学図書館や関連機関のほか、上海社会科学院、蘇州図書館、無錫図書館、嶺南大学図書館、マカオ中央図書館、シンガポール国立図書館、ニューヨーク市のクイーンズ公共図書館などと協力関係を結んでいる。レファレンスサービス（チャット、フォーム送信）は、これら国内外の図書館員および専門家によって行われ、海外からでも利用が可能である。チャットによるサービスは、9時から11時までおよび14時から16時までの1日計4時間受け付けており、それ以外の時間にレファレンスを申し込みたい場合は、指定のフォームに件名、居住地の省・市、メールアドレスとレファレンスの内容を記入して送信すればよい。回答期限の目安は1、2日となっている。回答済みのレファレンスはデータベース化されており、検索や主題でのブラウジングが可能である。

### ■総合レファレンスサービスネットワーク（聯合參考諮詢網）

全国文化信息資源共享工程（全国文化情報資源共有プロジェクト）（CA1601参照）の一環として、国内の公共図書館間での共同レファレンスと電子資料の提供を行うサイトである。広東省立中山図書館が管理センターの役割を担っている。チャット、電子メール、携帯電話のショートメッセージサービス、電話によるレファレンスを受け付けており、利用にはあらかじめ利用登録をする必要がある。利用登録は同サイト上でできるものの、国内からのみに限られている。チャットによるレファレンスサービスは、8時から21時ま

で1日13時間行っており、他と比べて格段に長い。また、時間外のレファレンスには24時間以内に回答をすることになっている。サイトにはレファレンス担当者のリストがあつて、誰がオンラインの状態なのかわかるようになっており、利用者はこのリストから担当者を指名してレファレンスを申し込むこともできる。レファレンスには、電子資料を有効活用しており、参考資料としてPDFファイルを提供している例が多いように見受けられる。回答済みのレファレンスはデータベース化されており、レファレンスの標題もしくは回答館で検索が可能である。

### ■中国国家図書館ウェブレファレンスデスク（網上諮詢台）

2006年5月に開始されたサービスで、チャットとフォーム送信によるVRSを行っている。チャットによるレファレンスサービスは毎週月曜から金曜の9時から11時までおよび14時から16時までで、図書館HPにある「網上諮詢台」のページからログインしてレファレンスを申し込むことができる。時間外のレファレンスは、登録利用者に限りホームページ上から申し込むことができ、回答期限は2業務日以内となっている。同館のホームページによると、サービスが開始された2006年5月29日から同年6月30日までの最初の1か月で、チャットによるレファレンスが919回、フォームを利用してのレファレンスが265回と好評を博している模様である<sup>(8)</sup>。

このほかにも、国家科学技術図書文献センター（科技図書文献中心：NSTL）<sup>(9)</sup>、中国科学院国家科学図書館（CSDL）<sup>(10)</sup>や各大学図書館などでも、規模やレベルは様々ではあるがVRSがすでに始まっている。今後、広範囲をカバーするVRSシステムの増加、図書館等による無料パソコン教室やインターネット端末の無料提供など、よりよい環境作りを通じた利用の拡大が期待される。

（関西館アジア情報課：清水扶美子<sup>しみず ふみこ</sup>）

- (1) 中国互联网络信息中心. 中国互联网络发展状况统计报告 (2007年7月). 2007, 76p. <http://www.cnnic.net.cn/uploadfiles/doc/2007/7/18/113843.doc>, (参照 2007-08-18).
- (2) 中国互联网络信息中心. 中国互联网络发展状况统计报告 (2007年1月). 2007, 145p. <http://www.cnnic.net.cn/uploadfiles/doc/2007/1/23/113530.doc>, (参照 2007-06-23).
- (3) 李琮. 国内公共图书馆数字参考咨询服务调查. 现代情报. 2007, 2007(1), p.116-118.
- (4) 彭蓮好. 我国高校图书馆实时咨询服务调查与分析. 现代情报. 2007, 2007(1), p.52-54.

- (5) “网上联合知识导航站”. 上海图书馆. <http://zsdh.library.sh.cn:8080/>, (参照 2007-06-24).
- (6) “联合参考咨询网”. 广东省立中山图书馆. <http://59.42.244.59/Readers/Index.aspx>, (参照 2007-06-24).
- (7) “国家图书馆网上咨询台”. 中国国家图书馆. <http://202.96.31.16/nlcvrld.htm>, (参照 2007-06-24).
- (8) “大事记”. 中国国家图书馆·中国国家数字图书馆. <http://www.nlc.gov.cn/service/guanyuguotu/dsj.htm>, (参照 2007-06-24).
- (9) “参考咨询”. 国家科技图书文献中心. <http://www.nstl.gov.cn/hlm/ckzx/index.jsp>, (参照 2007-06-24).
- (10) “问图书馆员”. 中国科学院国家科学图书馆. [http://www.las.ac.cn/subpage/subframe\\_detail.jsp?SubFrameID=1012](http://www.las.ac.cn/subpage/subframe_detail.jsp?SubFrameID=1012), (参照 2007-06-24).

Ref: 吕霞, 詹德优. 我国高校图书馆网上实时咨询服务调查与分析. 高校图书馆工作. 2006, 26(114), p.40-44.

方玮. 我国省级公共图书馆网上信息服务的现状 & 思考. 图书馆论坛. 2006, 26(1), p.155-157.

何爱琴, 鄢小燕. 国内合作数字参考咨询系统比较分析. 图书馆学研究. 2006, 2006(8), p.25-28.

何爱琴. 我国合作式数字参考咨询服务研究. 图书馆学研究. 2006, 2006(4), p. 72-74.

## CA1637

### 日本における漫画の保存と利用

#### 1. 漫画保存の必要性の増大

漫画やアニメが「世界に冠たる日本の文化」といわれて久しい。中でも「漫画」は、今や「MANGA」という国際語になっている。海外から高い評価を得てから国内でも見直されるという現象は、江戸時代の浮世絵の海外流出とよく似ている。海外からの評価は別にしても、漫画はその時代を反映する表現として次世代へ伝えてゆくべきものであり、そのためには当然、十全に保存されなければならない。

漫画の進化発展は目覚ましく、終戦直後の物資の無い時代に出版されたいわゆる赤本漫画は、玉石混淆で粗末な製本と安易な内容のものもあったが、手塚治虫作品に代表される素晴らしい作品も多数出版されていた。その後の1950年代半ばから出始めた貸本漫画にも玉石混淆の状況が受け継がれ、ここからも後に大家といわれる漫画家が大勢デビューしている。例えば、さいとう・たかをや白土三平、水木しげる、「劇画」<sup>(1)</sup>の名付け親である辰巳ヨシヒロなど、また少女マンガでは、わたなべまさこ、牧美也子などである。貸本漫画の後期（1960年代半ば）には、本宮ひろ志、池上遼一などもデビューするなど、枚挙にいとまがない。しかしこの時代、漫画は子供のものとされ、ある年齢に達したら卒業するものとも言われていた。また漫画は低俗なものと思われ、悪書追放運動の槍玉に何度も挙げられているのである。それでも大勢の熱心な漫